

双葉町復興町民委員会 町民コミュニティ部会 ワークショップ 第1回 報告書

- 日時 平成27年9月2日(水) 13:00～16:00
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
- テーマ 「町民のきずなやコミュニティの維持・発展への取組、歴史・伝統・文化の記録と継承や震災・事故の教訓の記録と伝承、教育や人材育成などに係る現状を知り、課題や解決策を考える」

■ワークショップ成果の発表

◇グループA

部会員：大橋、笠原、行徳、佐々木、白岩、舘林、山本

発表の要点：つなぐ～ゆめ・きぼう・きずな～

- 避難生活が長引き、普通の生活に戻れるのはいつかという不安がある。
- 復興住宅の整備をもっと早めてほしい。
- 双葉の人と交流することがうれしく、一堂に集まる場が必要だ。
- 仮設の集会所が不足し、借上住宅の人は集まる場所がない。
- 集会所に集まる移動手段が不足している。
- 移動手段はバスよりも、知り合いの車に乗せてもらう方が便利だ。
- 高齢者や子どもの心のケアが必要だ。
- タブレットは使い勝手がよく、活用している。
- 伝統芸能「せんだん太鼓」は学校の総合学習の中で継承している。
- ダルマ市は新しい参加型の形を考えたい。
- 地域毎の祭りができていない。

【カードに書かれた意見】

《集会所不足》

- そこに行けば皆に会えるという所があるといい。
- 集会所の場所がない。2か月前に予約開始で、(他の利用者と同じ日)重なったらじゃんけんなので、必ずとれるわけではない。
- 仮設の集会所は物置場になっている。

《移動手段不足》

- 双葉町では3kmから5kmで外に出られたが、いわき市は市内でも20kmも離れているため、車や移動手段がないと動けない。
- 仮設の集会所は移動手段があれば、遠くてもかまわない。
- 場所と移動手段の整備が必要だ。

《バス利用よりも相乗り》

- バスによる移動はうまくいかない。
- 郡山ではバスにだれも乗っておらず、空バスが走っている。
- 知り合いや親戚から「行きませんか」と声をかけていただき、同乗させてもらっている。

《心のケア》

- 仮設のご年配の方が心配だ。心の底のケアが届いていない。
- 仮設の住民の心の病が増えた。
- 救急車の出動回数が多くなってきた。
- 避難先の学校に慣れない子どもがいる。子どもの心のケアが必要かも。

《一堂に集まる場は大切》

- いわき市内には 135 世帯 200 人超が避難しているが、点在して孤立している。
- 一堂に集まる場所の確保が必要だ。
- 仮設住宅は小さな双葉町であり、情報が入ってくるが、借上住宅は誰も来ないので情報が少ない。
- 自治会では、班長と会員の会話を通じて直接交流している。
- 娘が近くにいても、双葉の人と顔を合わせるとうれしいという人がいる。
- 小さな双葉町！！守られている感じ。

《復興住宅をもっと早く》

- 仮設住宅にいつまで入っているのか。町で（借上げ住居を）借上げられるのでは。
- 復興住宅が早くできることを望む。平成 29 年度にできるそうだが、まだまだ遠い。
- あと 2 年も仮設住宅にいるのか・・・長い。

《ふるさとがほしい》

- 避難先に長くいても、ふるさとにはなり得ない。（双葉の時のコミュニティ）
- 心の復興の問題はずっと続く。終わりがないように思う。
- これをすれば普通の生活だというのがない不安。
- 福島県の人からでも差別を受ける。お金をもらっているだろうと言われたり、車を傷つけられたりする。

《タブレットは便利》

- タブレットはLINE や Twitter もできるので活用している。
- タブレットは使い勝手がよく、ストリートビューやナビを活用している。
- 町のホームページで町民の声をよく見ている。
- タブレットのアクセスの利用制限の限度を引き上げてほしい。
- タブレットのネガティブ情報を拒絶して見ない人もいる。

《タブレット勉強会》

- 3回ほど実施したが、今は集まらなくなった。
- 参加者を待っているのではなく、できる人が声をかけるとよい。

《祭りやイベント》

- 伝統芸能の継承として「集まれ！ふたぼっ子」をやった。山田の「じゃんがら」はとてもよかった。もっと（出演機会を）増やしてほしい。
- 「せんだん太鼓」は、ふたばワールドで震災後すぐに活動した。双葉の学校でも教えている。双葉の人がいわきで教えている。
- 「せんだん太鼓」は、総合学習の中で保護者やメンバーが教えている。
- 皆が参加するような新しい形のダルマ市を希望する。現在は参加する人が減っているので、誰もが参加できる参加型のダルマ市がよい。
- コミュニティがバラバラになったので、本来の地域毎の祭りができていない。

《個別の意見》

- 南相馬では自治会がないので、話を聞こうと思ってきた。
- 町の情報が伝わらないので、初めて見る情報が多い。
- ラジオ体操を機に、双葉、檜葉、大熊の人と交流した。5分ほど話したが、一番楽しかった。（郡山）

《カード記載以外の補足説明・感想等》

- 復興住宅をもっと早く建設してほしい。
- 仮設住宅が無くなればどこに行くのか。集会所の不足や送迎の問題がある。町へ要望したい。
- 借上げ住宅の自治会は一度に集まる場所がない。
- 集会所は一つの町村だけでは無駄だと思う。(他町村を含めた) いくつかの自治会で利用したらどうか。
- 移動手段もふくめて、高齢者の問題がある。
- 避難先に長くいても、故郷は双葉町だということ。
- タブレットは非常に便利に使っているが、はたしてどのくらいの人を使いこなしているのか。
- 祭りの継承もしているが、かつての地域の人が集まってのイベントはなかなか難しい。そこに行けばみんなに会えると思い、頑張って運営している。
- 集会所が不足している。利用頻度が少ないので借り上げるのも難しい。一つの自治会では難しいが、二つ三つとなればどうなのか。
- 集まるにしても送迎が心配だ。仮設が無くなればどうなるのか心配だ。
- 復興はなかなか難しいが、人としての復興は早くしたい。避難民というのがいやだ。
- 復興に終着点はない。
- 物理的な復興はなかなかできないが、人間として復興したい。
- いつになったら避難民（という意識）が頭から離れるのか。
- この集まりの（開催）時間に関して、冬になれば暗くなるので、その（開催）時間を検討してほしい。
- すごく活気があった。

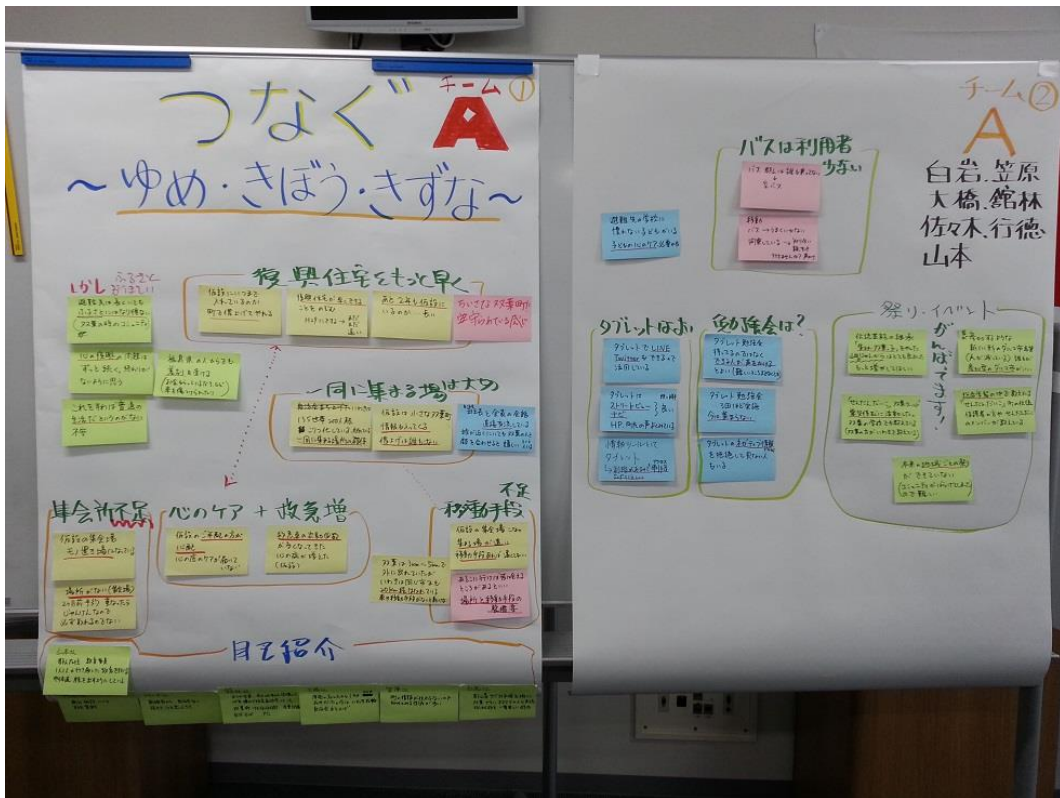
グループワークの様子



発表の様子



ワークショップの成果



◇グループB

部会員：岡村、齋藤、高田、林、松木、吉田、渡邊

発表の要点：集まろうふたば人～遠くのふたば人も大切だ～

- 集会に集まる人が固定化している。
- 自治会に入らない人、来られない人を考えた自治会づくりが必要だ。
- 現状の自治会は高齢化して10年後には消滅する恐れがある。
- 仮設と借上げ、集落にこだわらない新しい自治会を考える。
- 未来を担う子育て世代が参加するコミュニティ・自治会を考える。
- まずは自治会の情報交流から始めよう。
- 避難先地域との交流も大切だ。
- 町に自治会の役割の明確化を期待する。

【カードに書かれた意見】

《自治会に入らない人》

- 自治会に入らない人や、(集会所などに)来られない人をどうやって集めるかが問題だ。
- 自治会に入る必要のない人が多い地区もある。(自治会は)若い人には必要ない。
- 新しい地域の人たちと仲良くして、双葉町を振り返らない人もいる。
- 自治会への入会は、口伝えやタブレットを使って、もっと入りやすい環境をつくる。

《子育て世代》

- 子育て世代が多い自治会は、どう運営すればよいのか。
- 子どもがいる家族は、学校の付き合いが増えて、双葉の交流が少ない。

《高齢者》

- 自治会の所属者は高齢者が多い。

《自治会の有無の差》

- 自治会があることによって、きずなが残っている。ないと入りたくても入れなくなる。
- 自治会の構成員によって(活動の)違いが大きい。

《新しい自治会づくり》

- 自治会の再生を行っている。双葉町の集落でまとまるのではなく、新しい地区(避難先)で新しい自治会を作っている。
- 借上げと仮設を合わせた自治会づくりが進められている。

《自治会の役割の明確化》

- それぞれの自治会が何をして、どう動いているか、情報を交換できていない。
- (避難先で) 町の自治会がないところもあって、他の地区(避難先)の自治会に入ったりしている。(入会できる)自治会の範囲を決めないといけない。
- 自治会の役割を明確にしてほしい。
- 町は自治会をどのように認めているかを明確にしてほしい。

《行政の役割》

- 自治会の予算配分をもっと考えてほしい。(補助金の増額)
- 行政は自治会にすべてを任せ過ぎている。もっと柔軟に対応してほしい。
- 町は(自治会に関する)行政施策を県へもっと要請をするべき。

《自治会のこれからの取り組み》

- 各自治会どうしの情報共有の仕組みがない。
- 自治会の意見をまとめて、町に提言してはどうか。町からの回答を、避難している町民に知らせる仕組みを充実させる。
- 避難先で自治会があるが、5~10年たったときに維持できるか不安だ(若い世代がいない)。

《遠隔地の自治会の問題》

- 地方の避難先といわき市内の自治会など、離れた場所と本部をどうつなげるか。
- 隣町(近隣)ではないので遠い。交通費が高くて行けない。
- (双葉町へ)戻りたい人もいるし、戻りたくない人もいるので、議論が難しい。
- 都会へ行った人たちの自治会の形成は難しい。

《集会メンバーの固定化》

- 年に一度集まるが、メンバーが固定している。
- 週2~3回集会を開く。メンバーが決まっているので、もっとみんなと輪を広げたい。
- 20~30代の方々にも参加してもらいたい。連絡してもなかなか来ない。

《イベント交流》

- イベントなどは補助金で運営しているが、人数に見合った資金でない。
- 「交流会＝食事が楽しみ」なのに、1人500円でやってくれといわれた。(資金が)足りない。
- 埼玉では、双葉と避難先の町民との文化交流ができています。

《カード記載以外の補足説明・感想等》

- 率先してやっていけるような自治会組織になっていきたい。
- コミュニティとはなんであるかが問われている。
- 将来を見据えた場合、自治会が中心となると考えている。しかし、避難先で浮いてしまっても困るので、考えていけないといけない。
- 仮設住宅の自治会が消滅したという状況がある。そうならないためにも、今後は長期にわたって、このような会議で議論していきたい。
- 小学生、中学生、高校生、大学生、20代などの委員長（代表）みたいなのを置いて、役場の人と話をしたり、アンケートをとったり、このような会議を開いたりするのが大事。
- 僕たち（45歳）よりも若い世代を取り込んでいくのが大事。
- 自治会の役割の明確化が大事。そうすることで、自治会同士の情報共有、自治会の意見をまとめて皆に出すことができるようになる。

グループワークの様子



発表の様子



ワークショップの成果



■今回の部会のまとめ

○各班の発表を受けて、コーディネーター金子氏が全体のまとめを行い、次のとおり説明した。

- 避難生活の長期化で、さまざまなコミュニティ、自治会が生まれている。
- 今後の課題は、若者世代の意見と、避難先地域との連携である。
- 集会所の整備は、仮設住宅の町民が利用する近隣型、仮設と借上げの両方の町民が利用する市内拠点型、県外全国の町民が利用する広域拠点型などに分けて、利用者、ニーズ、機能、規模を整理するとよい。
- 高齢化が進む自治会のあり方は大きな課題である。
- 自治会にあまり参加していない、若い世代の意見を入れるなど、多世代のニーズに対応した、双葉町民のコミュニティや自治会について考えていく必要がある。
- 双葉町民のコミュニティ形成については、避難先の地域との交流と連携が大切であるので、関係自治体との行政による整理が必要だ。
- 長期化する避難生活の中で、子供から若者、高齢者までを含む、双葉のコミュニティと自治会を、しっかりと検討する必要がある。

◇質疑

(部会員の質問)

- 町は自治会のあり方をどう思っているのか。

(町的回答)

- 避難されている人の交流の機会が減っており、孤立している人もいることは、認識している。
- 交流は町民にとってかかせない課題である。
- 自治会はなくなっちゃいけない。人、金、物、にあてはめると、自治会は人、予算は金、集会所は物である。
- 高齢者や障がい者の移動手段が課題になっていることは認識した。
- 各都市の拠点に集会所的な施設を作る必要があると思う。
- 町を忘れさせない施策も必要だと思う。

【ワークショップのまとめ】

